

事業コード	H30ー建ー継ー26			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地すべり対策事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防事業			班 名	砂防班 (tel)018ー860ー2517
路線名等	谷地			担当課長名	河川砂防課長 小野 久喜
箇所名	雄勝郡東成瀬村谷地			担当者名	主幹(兼)班長 佐藤 鉄也
プランとの関連	政策コード	01	政策名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施策名	災害に備えた強靱な県土づくり	
	指標コード	03	施策目標(指標)名	県民の生命と財産を守る安全な地域づくり	

1. 事業の概要

事業期間	S 4 6 ～ H 3 1 （ 4 9 年）		総事業費	5 3 . 8 億円		国庫補助率	1 / 2	
事業規模	集水井工30基、集水ボーリング24,645m、排水トンネル848m、押さえ盛土工454,000m3、護岸工180m							
事業の立案に至る背景	当地区は、東成瀬村谷地に位置し、東西延長1300m、南北950mに及ぶ大規模な地すべり地区であり、古くから地すべりにより被害を受けている。 再度地すべりが発生した場合、一級河川成瀬川を埋塞させ下流の集落、耕地及び国道342号に甚大な被害を及ぼす恐れがあることから、地すべり防止施設整備をもって住民の生命・財産を保全するものである。							
事業目的	【主たる目的】 地すべりの原因となる地下水を集水井工・集水ボーリング工等により排除すると共に、排土工、押さえ盛土工を施工して地すべり災害の拡大を防止し、住民生活の安定を図る。 【保全対象】 人家241戸、耕地126.5ha、橋梁22橋、1級河川成瀬川、一般国道342号11,678m、村道22,201m、農道12,002m、東成瀬村克雪センターほか9公益施設							
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	経 費	事業費	5,140,000	5,376,000	236,000			
		工事費	3,095,000	3,170,000	75,000	集水孔梗塞箇所の再掘削を増工		
		用補費	40,000	47,000	7,000	立木補償の増		
	内 訳	その他	2,005,000	2,159,000	154,000	動体観測等の調査設計費の増		
		国庫補助	2,570,000	2,688,000	118,000			
		財 源	県 債	2,313,000	2,419,200	106,200		
	内 訳	その他	0	0	0			
		一般財源	257,000	268,800	11,800			
		事業内容		対策工事 調査観測 計画・設計 用地補償	対策工事 調査観測 計画・設計 用地補償			
事業の進捗状況	平成29年度末時点で、全体計画の98%が完成している。 地すべりの動きが沈静化していることから、事業完了時期等を専門家等で検討する「谷地地すべり対策総合検討委員会」を平成28年11月に実施した。その結果を踏まえ、平成31年度まで地すべり観測を継続し、事業を完了する予定である。							
事業推進上の課題	特になし							
関連する計画等	第3期ふるさと秋田元気創造プランにおける基本政策「県土の保全と防災力強化」を推進							
情勢の変化及び長期継続の理由	当地区は地すべり区域が広範囲なことに加え、変状の発生が活発なため、その対策に長期間を要している。							
事業効果把握の手法及び効果	指 標 名	地すべり危険箇所に対する概成率						
	指 標 式	対策済箇所／地すべり危険箇所数						
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標				低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	26.6%				データ等の出典	河川砂防課調べ	
	実績値 b	25.2%						
	達成率 b／a	94.7%				把握の時期	平成30年 4月	

前回評価結果等	☒ 選定または継続 ☐ 改善 ☐ 見直し ☐ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	県内最大の地すべり地帯であり、古くから地すべりによる被害が発生し、融雪期には地盤の変動が発生しており、地域住民は地すべりの安定化を望んでいる。	20点
緊 急 性	着手以来、地すべり防止施設の整備が進められているが、地すべりが発生した場合、極めて甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、早急な地すべり対策の実施により安定化を図る必要がある。	30点
有 効 性	[手段の妥当性]（代替案立案等の可能性） 地すべり防止工事の施工は、地すべり等防止第7条により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。 [整備効果] 対策により、保全対象である多数の人家や公共施設の保全を図ることができ、対策の有効性は高い。	8点
効 率 性	[費用対効果] 事業の費用対効果は1.48であり、効率性は高い。 ・ 総費用の現在価値 61.05 億円 ・ 総便益の現在価値 90.30 億円	15点
熱 度	[事業の進捗状況] 地元住民及び東成瀬村との合意形成が図られており、順調に事業が推進している。 [事業推進の見込み] 平成31年度の完成を予定している。	20点
判 定	ランク（ ☒ Ⅰ ☐ Ⅱ ☐ Ⅲ）	93点
	各観点において評価点が高く、住民の生命・財産を保全する上で有利な事業で有り、継続すべきである。	
総 合 評 価	☒ 継続 ☐ 改善して継続 ☐ 見直し ☐ 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続き地すべりの動向に注視しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 地すべり対策事業

事業コード (H30-建-継-26)
箇所名 (雄勝郡東成瀬村谷地)

1. 評価内訳

観 点	評価項目	細 別	評価基準	配 点	評価点	摘 要
必要性	災害発生時の影響（被害想定）					
	人家戸数	20戸以上		10	10	人家241戸
		5戸～19戸		7		
		1戸～4戸		3		
		0戸		0		
	公共・公益施設	以下に挙げる公共・公益施設がある 災害時要援護者関連施設 重要交通（緊急輸送道路、避難路、鉄道） 防災拠点（警察、消防、役場等） ライフライン施設（電力、ガス、水道等） 利用者多数（学校、駅舎等）		10	10	国道342号（第2次緊急輸送道路） 一級河川 成瀬川
		公共・公益施設がある		5		
		な し		0		
		計		20		
	緊急性	地すべり変状				
被害や亀裂、陥没、隆起などの状況		地すべりによる被害が発生している		15	15	平成元年 災害関連緊急地すべり対策
		全体的に変状が認められる		10		
		部分的に変状が認められる		5		
		変状なし		0		
災害発生の危険度						
河川埋却による淡水・氾濫の有無		あ り		5	5	成瀬川埋塞
		な し		0		
地質構造		以下の地質構造・地質年代を含む 断層・破碎帯、火山変質帯、温泉余土、流れ盤 中・古生層（結晶片岩、堆積岩） 第三紀層（堆積岩）、緑色岩・蛇紋岩の分布地域		5	5	流れ盤
		その他		3		
		湧水の有無	常時あり			
降雨時にあり			3			
な し			0			
計			30	30		
有効性	上位計画への貢献					
	ふるさと秋田元気創造プラン	プランに関連する事業である		5	5	
		プランとは別の個別計画に関連する事業である		3		
		プラン、個別計画に関連しない事業である		0		
	ソフト対策との関連性					
	公表周知している情報の内容	土砂災害防止法に係る基礎調査		5	3	秋田県HP 土砂災害危険箇所マップ
		土砂災害危険箇所マップ等		3		
な し			0			
計			10	8		
効率性	費用対効果					
	B／C	1.0以上		10	10	1.48
		1.0未満		0		
	事業実施コストの縮減					
	コスト縮減の具体的計画	あ り		5	0	
		な し		0		
	当初計画との比較					
	当初計画事業費からの増減	減少または10％未満の増加		5	5	
		10％以上～30％未満の増加		3		
		30％以上の増加		0		
計			20	15		
熟 度	事業着手の熟度					
	地元のニーズ	文書要望あり		5	5	要望書H9.10月 東成瀬村
		口頭要望あり		3		
		な し		0		
	関係自治体等との合意形成	合意形成が済んでいる		5	5	
		合意形成がなされる見込みである		3		
		合意形成がなされていない		0		
	事業の進捗状況					
	進捗率（事業費）	8割以上完了		10	10	(H29)52.95/(計画)53.76 =98.5%
		5割以上完了		8		
		1割以上完了		5		
		1割未満		2		
		計		20		
合 計				100	93	

2. 判 定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		